温故知新

歴史は未来の羅針盤

『近江日野の歴史』第六巻「民俗編」は、第一章「地域の暮らし」、第二章「人と家の暮らし」、第三章「四季の祈り」、第四章「日野の祭り」、第五章「伝承の文化」からなります。ただ今、役場・公民館などで好評発売中（税込み四千円）です。

多彩な歴史や文化を背景にもつ日野町には、四季折々に行われる多くの民俗行事が継承されています。そのほとんどは、五穀豊穣、招福除災、無病息災などを願って行われています。第三章では「四季の祈り」と題して、町内に伝わる特徴的な行事をできるだけ具体的に紹介しています。ここでは、その概要をお知らせします。

正月の行事

年頭である正月には、さまざまな行事が行われます。日野町を代表する正月行事としては、山の神祭りがよく知られています。この祭りは、五穀豊穣を願う予祝儀礼の一つで、丘陵がちの当町では比較的多くの地域で見られます。御神木に股木（木製人形）やわらツトを供える点がほぼ共通しますが、具体的な内容は隣接する集落でもまったく異なる場合もあります。

勧請吊りは、集落や神社の入り口に大縄を吊る行事で、悪疫や災厄の侵入を防ぎ、村内安全や五穀豊穣を祈願します。この他、弓神事である熊野神社のお祈り、年神を送るドンド焼きなどがあります。

▲山の神祭り（小野）

春から夏の行事

春は、草木が芽吹き、農作業が本格化する季節です。日野祭に代表されるように、日野町では春祭りがとても盛んで、ホイノボリ・御幣・神輿などのお渡りが行われる祭りもあります。春祭りは、秋の豊かな収穫を祈り、かつては共同作業であった田植えなどを控え、地域結束の場でもありました。

また、温湿度が高く、昔は疫病が蔓延した夏には、除災や無病を祈願する夏祭りが行われます。

盆の行事

盆の時期には、精霊迎え・送り（オショライサン）や地蔵盆など、先祖や神仏を祀る行事が集中します。当町で特徴的な精霊迎え・送りは、とくに東桜谷地区で見られ、集落近くの丘陵上などで大きな火を焚き、松明などで火（先祖の霊魂）を運びます。また、各地の地蔵堂や寺院などでは、地蔵盆が盛んに行われます。

かつて、これらの行事は子どもたちだけで行われていましたが、少子化などの影響により、今や存亡の危機に瀕しています。

晩夏から冬の行事

収穫の秋を控え豊作を予祝するのが野神祭りです。行事内容が簡略化されたものも含めれば、ほとんどの地域で行われています。その内容は実にさまざまで、奇祭として有名な中山の芋競べ祭も野神祭りに含まれます。多くの地域では、祭場に竹や芋茎で作った鳥居を建て、御神木に米粉団子や稲穂などを供えます。また、子ども相撲を奉納して、豊凶を占うこともあります。

秋祭りは、豊かな収穫を感謝する祭りですが、春祭りほど特徴的なものは多くありません。

▲野神祭り（増田）